

# えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から

(185)

安政南海地震について  
は、津波により土佐で大きな被害があったことは知られているが、隣接する伊予の宇和海沿岸部の被害はどうだったのでしょうか。今回紹介するのは、そのエリ

アに位置する外海浦(愛南町の南側沿岸部)の被害状

数日間はさまざまな場所に仮小屋を建てて、昼夜

## 安政南海地震の被害伝える文書

### 家3割被災 学び備えて

況が記された記録(以下、「諸願書一巻」と略称)である。

冒頭には、外海浦における地震発生時の状況が記されている。地震の発生時刻は、嘉永7(1854)

長水七上月

廿夜大震大津波被害願文書一巻

所載訴書其外訴書久留米等文書

外海浦

外海浦の地震記録「此度大地震大汐二付訴書并諸願書一巻」

＝県歴史文化博物館蔵

の寒さをしのぎ、村人は神仏に祈ることしかできなかつた。毎日昼夜絶えず余震が続き、終わりがみえない

ので、各自の判断で帰宅することとなり、居宅についても、津波で押し流されたり、地震

の修繕用に近村から提

られた。馬吉が地震の犠牲者であつたことがこの願書によつたところがこの願書によつたことがわ

かる。居宅については、津波で押し流されたり、地震

で破損したりして住めなく

馬吉が地震の犠牲者であつたことがこの願書によつたところがこの願書によつたところにな

る。

この3月に東日本大震災から14年になる。古文書から学ぶことで、近いうちに起きたとされる南海トラフ巨大地震に備えたい。

(学芸課長・井上淳)

「諸願書一巻」は特別展「宇和海のくらしと景観」で4月6日まで展示中。

△  
▲隨時掲載します

供された真縄・筵(むしろ)が、その後も大きな地震が起ころうという風評もある。が、その後も大きな地震が起ころうという風評もある。が、その後も大きな地震が起ころうという風評もある。

31

・菰俵(こもだわら)が配られている。それらで応急措置をして自宅に帰ったが、その後も大きな地震が起ころうという風評もある。

・2%が被災したことにな

「諸願書一巻」で注目されることは、冒頭の文章に続

き、外海浦が藩に提出した被害報告が筆写されてい

ることである。この報告に

「諸願書一巻」には、宮山浦の馬吉

が「流死」したため青嶋運

上銀の支払い延期を願い出

た文書が收められている。

地元では調査が行われ、安

政南海地震の年月日が没年

となつた嶋屋馬吉という人

物の墓が見つかっていた。

馬吉が地震の犠牲者であつたことがこの願書によつたことがこの願書によつたことにな

る。

「諸願書一巻」は

掲載許可番号: d20230301-04